

Identifying predictive clinical characteristics of the treatment efficacy of mirtazapine monotherapy for major depressive disorder

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-01-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堤, 多可弘 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032395

学位論文の要旨

Identifying predictive clinical characteristics of the treatment efficacy of mirtazapine monotherapy for major depressive disorder

「大うつ病性障害におけるミルタザピン単剤療法の有効性予測因子の研究」

東京女子医科大学大学院

内科系専攻精神医学分野

(指導：西村 勝治 教授)

堤 多可弘

Neuropsychiatric Disease and Treatment 2016:12、2533-2538 に掲載

【要 旨】

新規抗うつ薬の一つであるミルタザピン単剤治療における有効性とその予測因子について検討した。また副作用である過鎮静や、イライラ/不安症候群 (jitteriness and anxiety syndrome: JAS) の発現頻度も調査した。

東京女子医科大学病院神経精神科の外来において、2009年9月から2013年3月までに最初の抗うつ薬としてミルタザピンを投与された大うつ病性障害患者を対象として後方視的にカルテ調査を行った。有効性はClinical Global Impression scoreで評価し生物学的因子と症状が治療予測因子になるかどうかを調べた。さらに過鎮静とJASによる中断率を調査した。

ミルタザピン単剤による寛解率は36.8%だった。多変量解析の結果、自責感がない事 (odd ratio [OR] =0.15; 95%CI [1.66-37.24], P=0.006) と制止症状があること (OR=4.30; 95%CI [1.30-16.60], P=0.016) が治療反応性に関連していた。副作用による中断率は鎮静が13.2%、JASが11.8%だった。